

# 市川の歴史

発行：八戸市立市川中学校地域学校連携協議会  
校長：馬渡教二 会長：小向龍悦

## 「五戸郷検注進状」

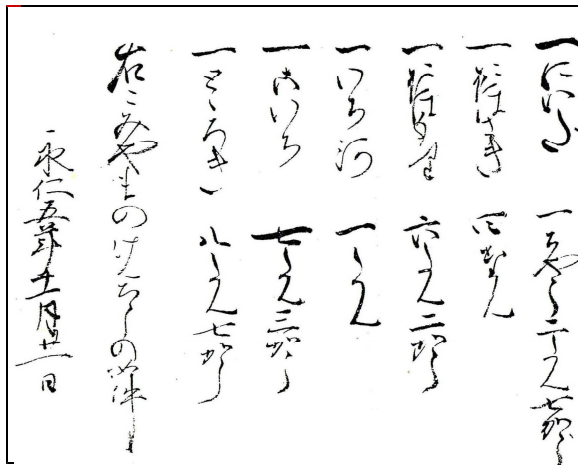
【鎌倉時代の古文書に、いち河・とろき・の記録】

鎌倉時代における五戸地域の水田状況等を知ることができるものとして、「五戸郷検注進状」という古文書が残されています。これには、鎌倉時代の永仁五年(1297)の年号が記されており、今から717年前のこの地方最古のもので、極めて貴重かつ第一級の史料とされています。(所蔵は岩手大学)

検注とは、村落の耕地を測量・水田の面積等を記録し、役人に報告することで、その報告書が注進状です。(五戸郷とは、五戸川と浅水川の流域をさします。)この注進状には、五戸川上流の「へらい」(戸来・五町八反二合)、「またしけ」(又重・十町三反)から始まり、「いち河」(市川・一反)、「こいち」(小市・七反)、そして、最後は「とろき」(轟木・八反七合)まで、14の土地の水田面積等が墨書されています。

なお、「いち河」は、下図〈五戸郷関係図〉に示されているように、現在の市川ではなく、五戸町上市川の一部と推定されています。

それにしても、今私たちが住んでいる地域のことが、鎌倉時代の古文書に記録されているということは大変重要なことであり、これは、次の世代にも伝えていかなければならないものだと思います。



〈五戸郷検注進状〉の後半部分



〈五戸郷関係図〉

⇒ 面積を示す「町」・「反」・「合」は、現在使用されている単位と同じではないそうです。

八戸市立市川中学校地域学校連携協議会教育コーディネーター：木村 隆一

参考資料：「五戸町史」「三戸・八戸の歴史」「糠部の大地」ほか

